

# 復興ダイアログ

## 語り合う人 募集★

会場 ふたば学舎 多目的室1-2 ※オンライン参加可

日時 2022年2月12日（土） 13:30～15:30（開場13:00）

話題提供するひと 古田徹也さん（オンライン登壇）

東京大学大学院准教授。専攻は、哲学・倫理学。主な著書に、  
『はじめてのウイトゲンシュタイン』、『いつもの言葉を哲学する』など

### ★テーマは「被災者」って誰のこと？

「被災者」と単純に言うとき、何か大切なつながりが失われてしまいそう・・・  
対話の場でそうした言葉の「もつれ糸を解く」試みをします。

「言葉の意味や用法というのは、私たちの社会や生活にとって些末なものではなく、むしろその生命線であり急所でもある」  
（古田徹也『いつもの言葉を哲学する』序章より）

災害「復興」のプロセスには、価値や意味をめぐるたくさんの葛藤がひそんでいます。言い換えれば、これが正解だと言い切るこののできない問題がたくさんあります。ひとつの正解に固めることができないので、いろいろな立場のひとたちがあつまって、  
阪神・淡路大震災から27年が経過した神戸から、ことばと記憶と気持ちをやわらかくしながら探求してゆきたいとおもいます。

※参加申込方法は裏面をご覧ください。

## ★ダイアログ#3テーマ:「被災者」って誰のこと?

震災の被災者とは震災でわざわざを受けた人のことをいいます。わざわざとは不幸な物事や悪い結果ということです。震災により住んでいた家が壊れたり、燃えたりなどの被害にあった人は被災者になり、市町村に申請すると罹災証明書／被災証明書が発行されます。でも、申請が認められないと／申請しないと公には被災者ではない? それだけではなく、震災の中で大きなケガをしたとか、障害を負ってしまったとか、亡くなってしまったとか・・・亡くなった人は犠牲者で被災者とは言わない? 震災でひどい目にあった人のそばで同じ痛みを感じる人は被災者では・・・どうなのでしょう? 今回の対話では、これまで単純に考えていた「被災者」について深掘りし、「被災者」の意味に「しっくりくる言葉」を探し、今まで知られていなかった重要な側面を見出したいと思います。(今回の探究者:山住)

### ■参加申込について

参加費無料

定員 会場・オンライン各20名(先着順受付、定員になり次第締め切ります)

下のQRコードを読み取り、専用の入力フォームよりお申し込みください。

※新型コロナウイルス感染症の状況によりオンラインのみの開催に変更する場合があります。



「復興ダイアログ#3」参加申込用QRコード

※QRコードが読み取れない場合は、ふたば学舎公式サイトに記載の案内ページをご覧ください。もしくはお電話でお問い合わせください。

公式サイト <https://futabasyo.jp>

電話 078-646-8128

### ふたば学舎

神戸市長田区二葉町7-1-18 TEL. 078-646-8128 (担当:やまづみ)

最寄りの交通機関:JR・市営地下鉄「新長田駅」から徒歩約13分

市営地下鉄「駒ヶ林駅」から徒歩約6分

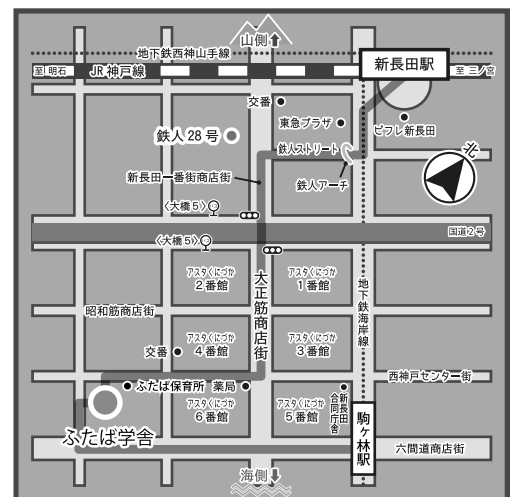
#### 共同企画

阪本真由美 (兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科)

高原耕平 (人と防災未来センター)

前田昌弘 (京都大学大学院 人間・環境学研究科)

山住勝利 (ふたば学舎 震災学習ラボ)



★次回ダイアログ#4は、2022年3月19日(土)開催予定